



高井由美子

◆SDGsの取り組みについて

問 私たちの社会が抱える様々な課題を同時に解決していくために、国際社会が合意した持続可能な開発目標で、日本政府は、16年12月SDGs達成に向け、あらゆる人々の活躍の推進、健康寿命の達成、平和と安全安心社会の実現など、8項目の優先課題を盛り込んだ実施指針を発表している。

土岐市のSDGsの考えは。

答 第6次総合計画を基にした、全ての取り組みは、SDGsの目指す17の目標とスケールは違うものの、方向性は同様で市政の推進を図ることで目標達成に資する。

たとえば、ゴール3、全ての人の健康と福祉を、では全世代健康寿命延伸事業や、ゴール4、質の高い教育を、では読書率の向上事業など重点事業として取り組む。

施策ごとにSDGsのアイコンで表示するなど見える化する。

◆子宮頸がん予防ワクチンについて

問 HPVワクチンは、平成25年4月より国の定期接種となりましたが、接種後に多様な症状が生じたことにより、同年6月に自治体による積極的勧奨の差し控えを行い、6年が経過。現在もHPVワクチンは定期接種の対象で、接種を希望する小学校6年生から高校1年生相当の女子は、定期接種を受けることが可能です。

厚労省の副反応検討部会において、専門家による解析が行われ、科学的にも疫学的にもワクチンとの因果関係は認められないという見解が得られております。

定期接種の権利が無くなる高校1年の女子に対して、接種を判断するための最新の正しい情報と助成期間終了を知らせるべきと考える。

答 国の動向も確認し、適切な情報提供について検討し、必要な対応をしてまいりたい。



SDGsのロゴ

《第1回定例会一般質問》

●印は議員の意見・提案



北谷 峰二

◆病院事業について指定管理者に求める病院像は

問 どのような医療提供をJA岐阜厚生連に要望しているのか。

答 土岐市における中核的な医療機関の担い手として地域医療機関との連携の下、急性期を中心とした外来及び入院診療を提供すること。救急については東濃厚生病院との輪番制により24時間365日、第2次救急医療体制を組む。脳卒中センターについては24時間365日救急医療体制を組むこと。土岐市と土岐医師会が実施している休日急病診療に協力することとまとめている。

問 辞められる医師の方及び看護師の方の後任確保はできているのか。

答 常勤医師23名から21名、非常勤医師48名から49名となる予定。現在診療している診療科が減ることではない。看護師は訪問看護を含み常勤職員126名から92名、非常勤看護師は31名から30名となる。

問 1病棟閉鎖、やすらぎ1フロア閉鎖で現状維持と説明があったがこれ

はあきらかに縮小ではないのか。

答 入院患者数減少が続いており、看護師が減少になるが患者さんもスタッフも集約することで、より手厚い看護体制を言うこと。やすらぎは介護職員が減るが介護の質を落とさないという一般棟と認知症専門棟の2つに分かれていたが入所者と介護スタッフを一般棟に集約させて頂いた。

◆新型コロナウイルス感染について問 小・中学校の対応策について。

答 子どもの健康安全を第一に考え、春休み迄一斉休校とし児童生徒の学習に遅れが生じない様家庭学習を課したり、二週間に一度家庭訪問をする。

問 学校給食の対応策について。

答 納入された材料の中で今後活用出来るものは活用する。野菜類は処分を依頼するのは大変忍びないが現場で処分、期間が短かったものは残念ながら廃棄処分とした。

問 学校開放について。

答 一年生から四年生迄の児童で家庭等一人で留守番など出来なく、面倒を見られない方が対象で、49名の申し込み有り。

問 不特定の人が多く訪れる施設の対応策について。

答 政府要請によりアルコール消毒液設置と従業員はマスク着用を義務化。営業時間の短縮。五月末迄、館内イベント中止または延期とのこと。



安藤 学

◆小・中学校空調設備について

問設置状況確認と使用時期、運用基準の再確認について。

答小・中学校の普通教室への空調機器取付工事は令和2年2月末までに完了している。使用時期と運用基準については6月から9月の間、温度が28度を超えた時に、エアコンを運用することを基本ルールとし、実際の運用にあたっては子ども達の健康面や学習環境面を考慮しながら学校長の判断で柔軟に運用をする。

◆子育て支援について

問不登校について、平成30年度の実績はどのようになっておりますか。

答不登校出現率は小学校は全国の1.6倍、県の1.5倍、中学校は全国の1.4倍、県の1.5倍となり高い傾向は続いている。今年度は小学校は昨年度並み、中学校では前年を下回る見通しである。

問家庭教育について、不登校の原因として、家庭に限定した原因は小学校で47%、中学校で34%、不登校の主原因は家庭が原因とあるがどのよ

うに考えておられますか。

答家庭に関わる要因を解消する形で保護者を対象に子育て講座「家庭教育・子育て・親育ち特集」等のガイドブックを作成している。

問家庭教育支援チームの必要性は、どのように考えておられますか。

答家庭の中に入っていくのは難しいのでコミュニティ・スクールと合わせコミニティの動きの中でそれに近い動きが出来たらと考えている。

◆陶磁器産業の活性化について

問美濃焼のブランディングについてどのような活性化を考えていますか。

答HP、インスタグラム等で美濃焼製品の紹介、宣伝、販路の拡大を図っている。また美濃焼の歴史や魅力を紹介、品質向上等の講習会を実施。効果的なPR方法を検討している。

問ふるさと納税返礼品について。

答地場産業の活性化を図るべく市内で生産された美濃焼を核と考えて陶磁器産業の活性化と増収に繋げる。

◆イオンモール開業に伴う19号線渋滞対策について

問イオン開業に伴う交通渋滞対策は。

答イオンモールへのアクセス道路、19号線の上下線へのファスナー合流、開発区域内の道路空間利用、道路案内看板による都市間連絡道路の案内と3つあるインターチェンジ、シヤトルバス等の活用案内をする。

《第1回定例会一般質問》

●印は議員の意見・提案



和田 悦子

◆介護保険事業の課題について

問老人保健施設やすらぎの定員と現在の利用者数は。

答定員は短期入所を含めて1000名だが、現在は54名です。

問4月から総合病院の体制が変わるが、介護職の人数はどうなるか。

答看護師、准看護師、介護福祉士など、介護職員は合計で51名だが、4月以降の見込みは正規職員、日々雇用職員合わせて35名。

問介護職員の確保については。

答市のホームページ、ハローワークで募集している。厚生連も人材派遣などで職員の確保に努めている。

問当面、利用者の受け入れを停止するということが、影響と対応は。

答新規入所については若干の制限はある。4月以降は介護の質を落とさないよう、スタッフと入所者を再編成し、一般棟での運用としている。この間の入所申し込みについては、他の施設を紹介するか、短期入所での対応をする。大きな混乱はないと考えている。

問2025年の介護施設の需要と供給の見通しは。

答通所介護事業所が2か所増で供給は足りていると考える。特別養護老人ホームは1施設を計画しており、令和2年度中の入所開始を予定している。ただ、入所希望者全員の需要を満たすことは困難と認識している。

問介護職が不足している老人保健施設やすらぎに介護の補助として高齢者の雇用を考えられないか。

答高齢者の健康、生きがいづくりについて取り組みが必要と思うが介護助手に限った形では考えていない。

◆元気な高齢者住宅の転ばぬ先のバリアフリー工事助成について

問国は介護費の膨張を抑えるため介護予防や自立支援に成果をあげた自治体に交付金を大幅に拡充するようだが。

答保健所機能強化交付金とは違うメニューと理解している。

●交付金がなくても高齢者の健康を維持していく取り組みを前向きに検討いただければありがたいです。

問公園長寿命化計画の進捗状況は。

答平成27年度から進めており、9公園が完了する。

●長寿命化計画の指針には、公園の社会的意義の重要性が書かれている。ヒートアイランド緩和の効果のある公園も今後は必要だと思います。